



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報索引ほか No. 20-31

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報索引ほか No. 20-31. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1955, 20-31

ISSUE DATE:

1955-03-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186846>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会

水族館月報

1 9 5 4

(Nos. 20—31)

目 次

No. 20(4月号)..... 1	No. 26(10月号)..... 37
No. 21(5月号)..... 5	No. 27(11月号).... 41
No. 22(6月号)..... 13	No. 28(12月号) ... 51
No. 23(7月号)..... 19	No. 29(1月号).....57
No. 24(8月号)..... 25	No. 30(2月号).....63
No. 25(9月号)..... 31	No. 31(3月号).....67

(附1) 1954年度年報 77

(附2) 1955年度委員會議題案 81

(附3) 水族館改修の前提として博
物館を平屋化する計画 83

索引 卷末

京都大学瀬戸臨海実験所振興会

1955年度委員会議題(案)

1. 議長選出、新任監事の紹介、オブザーバーの承認

新任監事 生駒正教氏の正式承認

実験所新任助手 布施慎一郎氏をオブザーバーとして出席させることの可否

2. 議事決定

3. 1954年暫定経理報告(1954年4月1日～1955年3月15日間)

4. 及び事業報告

5. 同上に対する監事の監査報告

6. 水族館改修長期計画案審議(別紙)

7. 1955年度予算案提出

イ 金 4500000 円 収入高

金 4500000 円 支出高

ロ 支出予想経費

一般経常費 1,300,000 円

水族館改善費 1,000,000 円

実験所費 1,200,000 円

博物館費 200,000 円

積立金 800,000 円

(積立基金 75万円)
災害時予備金 5万円)

8. 水族館改善附帯事業案

イ 防火設備

ロ 海亀プール周囲に廻遊路設置

ハ 博物館前の砂利道を舗装して排水をよくする

ニ 水族館に通ずる雨道の盛土砂利敷

ホ 防風植林

ヘ パンフレット及び繪葉書の発行(観客側の切なる希望)

8. 規程改正の件 (別紙)

9. 常務委員の交代

10. 公開時間制度

従来開館時間に制限なく、館内に過重な業務負担と時間の浪費を強いたことを改め、戦前にならって下記の如く定め、一般に徹底させる。

(1案) 年中無休

毎日午前9時より
午後5時まで

(2案) 年中無休

3月より10月まで

午前8時半～午後4時半

11月より2月まで

午前9時～午後4時

11. 館員の待遇改善

休日勤務手当は従来日曜祭日に出勤する者に対し、1日150円(月3回は150円、月末の1日は無休の条件で300円)の割で給していたが、200円に増額する。

12. 番所と植物園よりの申出で

イ. 水族館陳列室出口より植物館入口に至る路の舗装部分を左右1尺拡張したい。(費用負担)前年度よりの再度の要望)

ロ. 前年度締結した覚書に基づく海岸道の構築は今秋より着手し、期限までに竣工させる。全長80m、その経費50～80万円と見積っている。

13. 町及び観光協会への要望

構外の隣接地に海水作業実演場が設けられると聞くが、之に対する意見聴取。

水族館改修の前提として博物館を平厶化する計画

京大水族館は関西地方に於てはある程度の名声をつなぎ得ているが、各地に続々と生れつつある新設水族館に比べて、設備の貧弱さはおほうべくもない。單に各水槽の大きさのみならず水槽の数についても決して樂觀は出来ない。暖地にあつて衰つた魚族が入手し易い裏が現在のところ幸じているが循環装置を具えた各地の新設水族館が管理技術を習熟してくれば、この裏に於ても膝を屈する期の来るのは、時間の問題と覚悟しなければならない。

特に大阪市に於ても、築港附近に1億円の予算を以て大型水槽約30箇を有する水族館を建設する計画が進んでいる。京大水族館としても、現在の設備に大改修を加える必要を感じざるを得ないであらう。

◎ 改修の規模・方式

1 全然新しい構想による改築

各地にある設備と肩を並べるためには、また現在の水槽容積を維持するためには、千万円単位の費用を要するのは明らかである。この様な工事は多額の寄附金を得られれば限り、振興会の手には負えない。また現在の国情では、国家事業として取上げられる事も期待できない。

但し、かなり近い将来に、以上の期待を持ち得るならば、一応新しい設計を試み、改築の際に利用できる状態、という条件下で現設備に手を加える事が考えられる。

2 現在の建造物を生かしての大改修

1. 現在の建造物に相当の改修を加える場合早急に実現するためには、建物に關する費用まで、全額を振興会が負担するを要する。

なお、国有財産改修の許可を必要とする。

- ロ 現在の建造物には手と触れず、取壊（可態な付加物として新設備を施す。現在の建築物が老朽、又は破損した場合の復旧工事は国家負担となり、振興会は付加設備のみを負担すればよい。また国有財産改修に関する許可は必要としない。

振興会の規模・能力より考えて、2-ロの線に最も具体性がある。

◎ 改修具体案 (別紙参照)

1 南中水槽室間に新水槽増設

2 南水槽室内部の一部改造

入口附近の混雑を緩和するため、西面水槽及バット台を取除き、ほゞカメ水槽の位置に新設計の保温水槽を設ける。現在西面水槽は給排水系にかなりの損傷を来しており、バット台には種々の不便がある。

3 標本陳列室と中水槽室間に広大に俯瞰水槽を新設する（実験にも使用できるように水中照明）この場所に横観水槽を作る事も考えられるが、そのためには海水タンクの容積を増さねばならない。

4 南水槽室、小型水槽の改修

ガラス面を拡大し裏側から作業できるようにする。

5 南水槽室の俯瞰水槽を適當の位置に移す。

6 海水タンク拡張工事

7 標本陳列室北側（東側にも可能）を差出し、大型横観水槽を新設する。

註 1) 給排水管はすべて室内露出

2) 1-5は現海水タンクで可能。水位の差からポンプのフル使用はむづかしいとの前提のもとに7の前に海水タンク拡張を考えた。

3) 平均収入 400 万円として

$$400 \text{ 万円} \times 1/6 = 66 \text{ 万円} \dots\dots \text{特別予備金}$$

$$\{400 - (66 + 150)\} \times 1/2 = 92 \text{ 万円} \dots\dots 150 \text{ 万円 一般経常費}$$

$$\dots\dots 92 \text{ 万円 実験所費}$$

$$66 + 92 = 158 \text{ 万円}$$

博物館費、その他の出費を考慮して毎年約 120-130 万円位の費用は期待できる。

4) 以上改修の期間は一応 10 年とする。

5) 以上が完成すると、やい中水槽室がせまい以外、水槽容量、教員に他、いかなる水族館にも劣らぬものとなる。

博物館の問題

以上の計画を遂行するためには、標本陳列室の標本類を他の場所で展覧せねばならずそのためには現在の博物館を改造する事が必要になってくる。現在の建物では地震及び颱風の際に二階が激しく揺れて、標本類の展覧は不可能である。この補修について今迄に得たところを総合すると現状のままで補強ならばできるかも知れないという線である。これでは広間を小集会に利用できる程度の効果しか期待できない。標本展覧に利用するためにはこの平屋化が絶対に必要と考えられる。これは振興会で実施する以外に望みは持てない。

平屋化の具体案 (別紙参照)

二階を解体して、現在の一階東側に平家として建てる。この際、続けて長い平屋とするか離して建てるかが問題となるが土地の状態及び景観の美から二階部を 180°回転した形で続けて建て屋根をキリツマとするのが適当と思われる。天井と二階の床は離れているから、移築の部を学生実習室のようにコンクリート床、鉄筋コンクリート

の腰とすれば、旧材の相当部を活用出来る見込みである。また現在博物館階下にある標本は他に収容場所がないので、そのまゝとし、雨が工事途中に強風を受けるおそれのない季節を見計って施工させる。

◎ 平屋化に要する費用

続けて建てる屋根はギリツマ、移築の部は赤スレート瓦使用、その他は現状のまゝ(即ちトユはつけない、移築の部以外はペンキを塗らない)を条件として見積ると：—

現位置に残る一階の改装 (62坪).....	249,700.-
移築する二階部の改装 (52坪).....	1978,000.-
計	2,227,700.-

◎ 昭和30年度にこの費用が支払えるか

2月末日現在の特別積立金74万円、昭和30年度の予想収入400万円として30年度末特別積立金66万円、30年度に水族館改善費として使用出来る見込み額

$$\{400 - (66 + 150)\} \times \frac{1}{2} = 92 \text{万円}$$

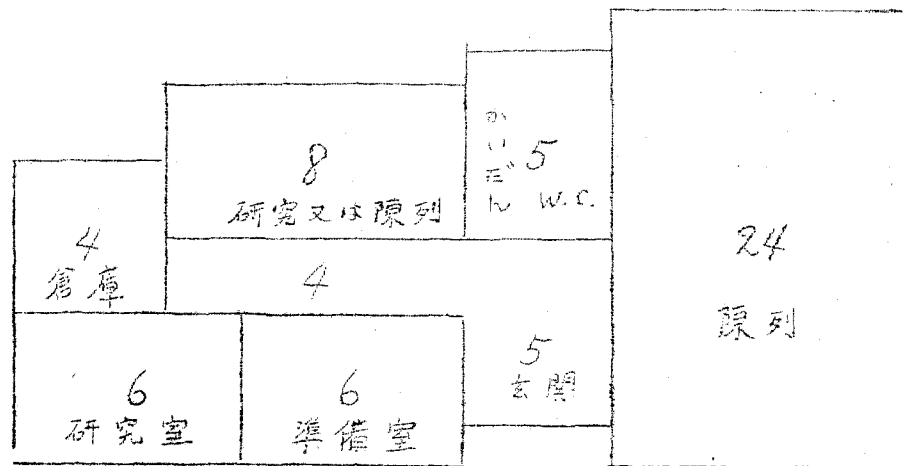
$$74 + 66 + 92 = 232 \text{万円}$$

とらめえず現存の74万円で一階の改装を行い、重要資材を買いつけておいた後、徐々に工を進めれば、月々上記の見積に近い費用で、明年3月31日迄に竣工、支払完了をみることができる。

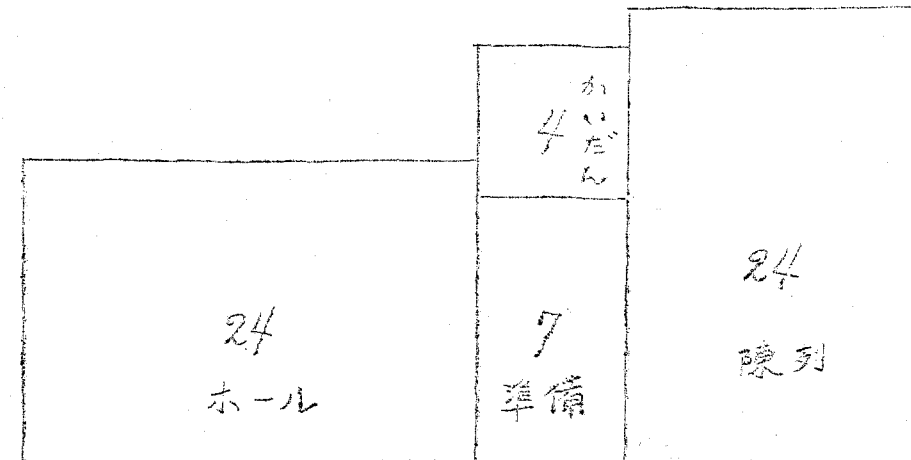
以上のように水族館の改修を考える時、必ず博物館の平屋化の問題が起きてくる。かつての博物館建物の完全利用は、実験所としても望ましいものである。また将来平屋化された広間に映写設備などが整い、更に長い建物の南側にテラスなどが設けられたならば、この建物が小集会の場所として、白浜町にプラスする事も期待できよう。水族館大改修の

第一歩としてまず博物館を初年度に処理し、以後 前記の項を追うて堅実に改修の実をあげていきたいと念じている。

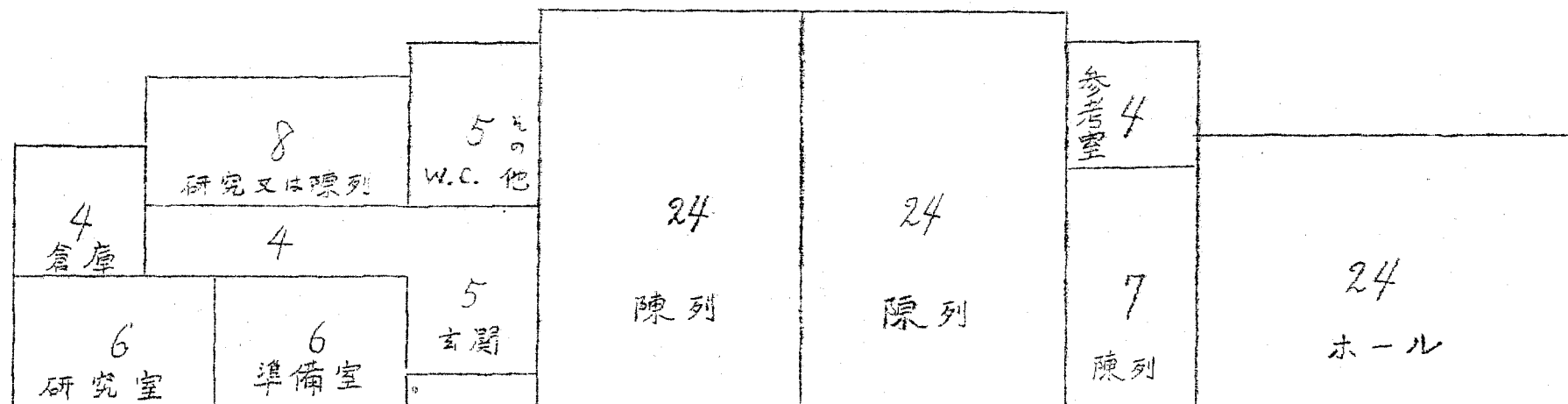
博物館の平屋化



(一階)

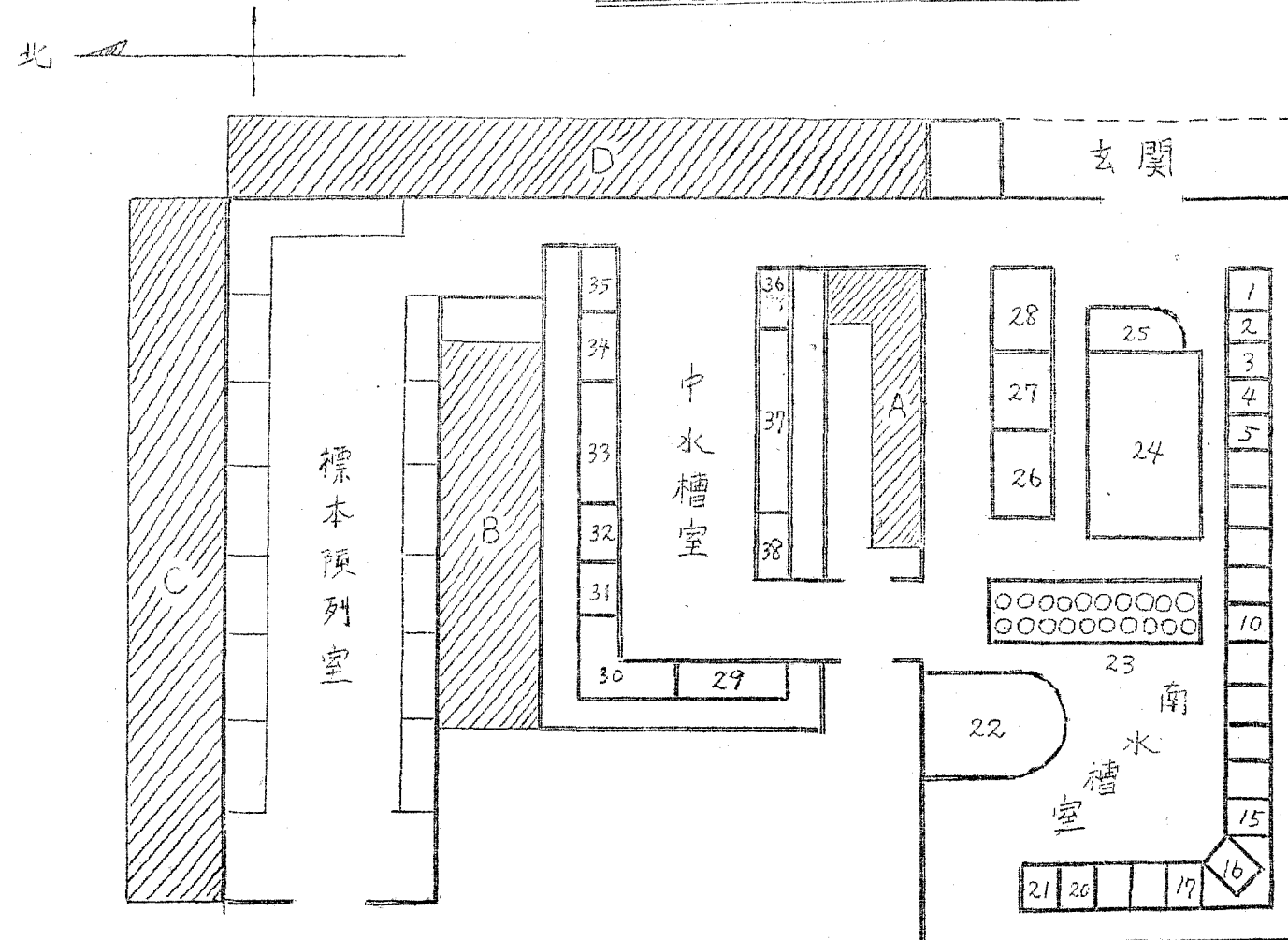


(二階)



(完成後)

水族館改修箇所



- A.... 横観水槽新設
- B.... 俯観水槽新設
- C.... 横観水槽新設
- D.... 水槽又は窓を作って置水槽

- 西面水槽 26-28
- バット台 23
- 亀水槽 22
- 小型水槽 1-21
- 俯観水槽 24-25

委員会(才3回)	5. 6.
委員会(才4回)	67. 69.
慰労会	31. 68.
印刷正誤表	35.
繪葉書	22.
海水取入口	67.
学長初巡視	13.
亀用起重機	44.
観光協会	8.
遊事交替	41. 63.
気象観測	11.
寄贈	28. 40. 41. 44. 66.
記念スタンプ	22.
魚病	1. 51. 54.
蛍光灯	51.
経理項目	5. 6. 69.
公開時間	8. 68. 72.
奨学金制度	70.
水槽の水温調査	60.
水槽室改造	51. 57.
水槽録	11.
水族館改修計画	67. 83.

水族館視察	1. 37. 47.
水族館飼養動物数	12. 61.
水族館設置計画	17. 29. 61.
生態写真	23. 25. 28. 40. 66.
説明板	47. 50. 51.
待遇改善	7. 57. 72.
退職資金	8. 72.
台風被害	25. 31.
対番所山植物園関係	7. 13. 72.
対明光バス関係	7. 72.
ツボアミ漁業	54. 59.
積立金	7. 78.
電熱装置	54.
踏板取付け	50. 51.
南紀生物同好会	25.
排水用空池	13. 19.
博物館	6.
番所山灯台	25. 63.
ビニール管	44.
広場美化	37. 41.
ポンプ修理	1. 51.
マーク	57.
物置復旧	41.

アイゴ	54.
アオウミガメ	21. 28.
アオブダイ	10. 65.
アオリイカ	39. 44. 54. 59. 61.
アカウミガメ	1. 16. 28. 34. 39. 54. 66. 74.
アカエイ	10. 61. 75.
アカハタ	28.
アサヒガニ	75.
アミモンガラ	1.
アミメノコギリガザミ	34.
アンコウ	75.

イシダイ	3. 54. 61.
イソギンチャク	44.
イセエビ	61. 65.
イトヒキアジ	34.
ウズラガイ	3.
ウチワエビ	66.
ウツボ	1.
ウマズラハギ	60. 61.
ウミヒゴイ	28. 40.
ウミヘビ	10.
ウミマツ	44.

エソ	28
エビスダイ	54 60 75
オオギフトヤギ	54
オオセ	3
オオバナサンゴ	66
オニナマコ	61
カイメン	66
カゴカキダイ	1 54
カサゴ	28
カサネカンザシゴカイ	54
カスザメ	75
カブトガニ	16
カマスベラ	40
カワハギ	28 40
ガンギエイ	59 75
カンダイ	65 75
キハツソク	54
キュウセン	44
コオイカ	59 61
ゴシキエビ	39 44 61
コブセミエビ	3
コブダイ	65
サカタザメ	10 75
サバフグ	75
シオサイフグ	61
シシイカ	3
シビレエイ	75
シマイシガニ	39 54
ジノノアメフラシ	11 16 21
シラヒゲウニ	44
シロガヤ	66
シロザメ	59 61 75
シロチョウガイ	44
スジベラ	40 44
セトダイ	59
セミエビ	61
ゾウリエビ	44

タイマイ	11 16 21 28 34 54
タカアシガニ	3 10 16 21 60 61 65
タマミ	40
ツチホゼリ	59
Trichaster	3
テンブダイ	59
ドナザメ	59 61 75
ナガスフジラ	11
ニシキエビ	34 35 59 61 66
ノコギリガザミ	3 34 44
ハナシヤコ	34 54
ハナミノカサゴ	3
ハマチ	54 61 75
ハモ	10 22
フトヤギ	44
ヘイケガニ	3
ベニヒモイソギンチャク	61
ベラ類	54 61
ホオボオ	75
マイカ	3
マダイ	28
マダコ	1 16 44 54
マツカサウオ	54 59 61
マトダイ	3
マナマコ	61
ミカドウミウシ	28
ミギマキ	44 54
ミノカサゴ	22 54
ムシガレイ	75
モブシ	65
モンダコ	75
モンハナシヤコ	40
ヤギ類	59 61
ヤドカリ類	21 44 61
ヤマブキベラ	44
ルリハタ	44

昭和30年4月4日発行

編集兼
発行人 内 海 富 士 夫

発行所 瀬戸臨海実験所振興会
和歌山縣・白浜町
瀬戸臨海実験所内
(電話 白浜 515)